

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	てとり		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児童発達支援 8名 放課後等デイサービス 33名	(回答者数) 児童発達支援 4名 放課後等デイサービス 21名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日の変化に対応できるための情報共有と、適切であるかを全体で振り返り修正することを踏まえて、情報の透明性が高いこと。	他責にせず一人ひとりが自律的な判断に基づいて行動できるように個々の実態把握や家庭背景を熟知することに努めていること。	地域ごとに伴う情報量を持ち課題に対する解決に役立つよう自発的に獲得すること。
2	それぞれのご家庭に対して可能な限りでスピード感のある個別の対応を出来る体制をとりやすいこと。	年齢や発達に伴った家庭間を繋げられるように保護者会を通じてコミュニティを作っている。	参加者が増えても開催が可能なように必要に応じたグループ化を図り担当を設けて意見交換ができるようにしていく。
3	心理指導担当職員のネットワークにより学校関係者との連携がとりやすいこと。	現在4～17歳までの利用児がいるが青年期にかかるグレーゾーンと呼ばれる児に対する密な情報共有を前提にして支援していること。	当事業所の利用時から発信された安心できるということが浸透されるように丁寧なやりとりと関係作りを切れ目なく継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用に際して連絡帳でご家庭へと具体的な活動内容を伝えている。少数派ではあるが見ていないと聞かれる声もあるため伝達方法に改善を要すると考える。	共有方法を取り込み発信していく術にかたよりのある。	手軽さに視点を置きSNSを利用して直接呼びかけしていくこと。
2	ICT教育に遅れが生じており導入するまでに時間を要していること。	トレーニング体制がとれずに専門知識を有している職員がいない。	誰もが使用することに困らないものを取り入れていくこと。
3			